

# 文化交流の理解を深める小学校社会科における近隣諸国の学習

永田成文<sup>1)</sup>

小学校社会科における近隣諸国の学習では、文化のつながりについて導入で扱うのみで、文化のつながりそのものに焦点をおいた学習となっていない。本研究の目的は、小学校社会科において、文化交流の理解を深める近隣諸国の学習を提案することである。本研究では、文化交流の理解を深めるとは、文化の伝播、文化の変容、文化の交流を理解していくことであると定義し、これらの視点において共通点と相違点を有する文化事象を比較検討する新しい学習論を提示した。具体的な近隣諸国として中国を、文化事象として漢字とお茶を設定して授業を開発し、実験授業を実施した。ワークシートの分析結果から、本研究で開発した授業は児童の文化交流の理解を深めるために一定の効果があることがわかった。近隣諸国から伝播し、現在の日本の生活に根付いている文化事象は、文化交流の理解を深める学習の学習内容の中核に位置づけることができる。

キーワード：文化交流、近隣諸国、伝播・変容・交流、漢字、お茶

## I. 研究の目的と方法

日本と中国や韓国などの近隣諸国は、今後、経済的・文化的・人的な交流がますます活発になると予想される。小学校社会科6学年の国際理解分野の内容ア「我が国と経済や文化などの面でつながりが深い国の人々の生活の様子」では、日本の近隣諸国を意図的に取り上げ、文化や習慣を理解し、尊重することが目指されている<sup>1)</sup>。異文化を理解し、尊重するためには、文化は自然へ合理的な適応を図り、より充実した生活を営むために考案したものであるという点で共通性があること<sup>2)</sup>に着目する必要がある。

学習指導要領に対応した教科書では、対象とする国の日本とのつながり、人々の生活、学校生活のようすが共通して取り上げられている<sup>3)</sup>。日本の近隣諸国は文化面でつながりが深い国として取り上げられる。しかし、導入で様々な文化が日本に伝播していることが取り上げられるのみで、展開後は対象国の生活・文化を理解する学習となっている。文化は国と国との二国間で伝播するのではなく、ある一定の範囲で伝播する。従来の近隣諸国の学習は、文化が近隣諸国から日本に伝播する点が強調され、伝播した文化が日本に合った形で変容しているという視点が弱い。変容した文化は逆に日本から近隣諸国に伝播し、双方向で文化の交流をする場合もある。文化面のつながりに焦点をあてた近隣諸国の学習は、文化の伝播、文化の変容、文化の交流をとらえる必要がある。

本研究の目的は、小学校社会科において、文化交流の理解を深める近隣諸国の学習を提案することである。

研究方法は、次の通りである。

第1に、小学校社会科において、文化交流の理解を深める近隣諸国の学習の学習論を提示する。

第2に、提示した学習論に基づいた授業を開発し、実験授業を行う。

第3に、開発した授業を文化交流の理解を深める視点から分析し、その有効性を明らかにする。

## II. 文化交流の理解を深める社会科の学習論

### 1. 内容論

文化交流の理解を深めるとは、まず文化の伝播を理解し、次に文化の変容を理解し、さらに文化の交流を理解することである（図1参照）。

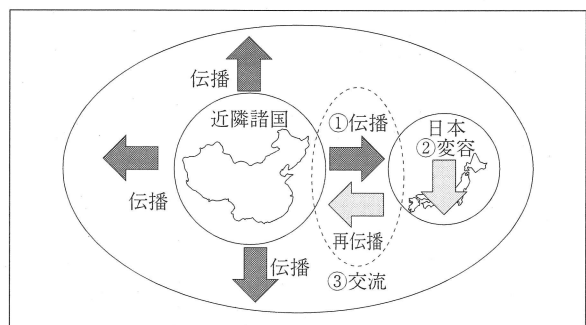


図1 文化交流の理解を深まりのイメージ

文化交流の理解を深める内容として、近隣諸国から日本に伝播し、日本の生活に根付いている文化事象<sup>4)</sup>の中で、日本独自の形に変容し、変容したものが再び日本から近隣諸国に伝播することで文化の交流がイメージできるようなものを事例に取り上げる。

### 2. 方法論

文化交流の理解を深める方法として、近隣諸国から日

<sup>1)</sup> 三重大学教育学部社会科教育講座

本へ伝播し、日本の生活に根付いている文化事象の中で、その特質が異なるものを取り上げ、比較考察していく。

文化の伝播を理解するために、近隣諸国から日本に伝播し、文化の伝播の範囲が異なる文化事象を比較する。文化の変容を理解するために、近隣諸国から日本に伝播し、文化の変容の難易が異なる文化事象を比較する。文化の交流を理解するために、近隣諸国から日本に伝播・変容し、再伝播の有無が異なる文化事象を比較する。

文化事象を比較考察することにより、児童は文化交流の面的側面とともに各文化事象の特質を意識できる。

### 3. 授業過程

従来の社会科における近隣諸国の学習では、「どのような文化が存在するのか」「なぜそのような文化が存在するのか」という問いについて、その背景を自然環境や社会環境から考察する異文化を理解する過程となっていた。

文化交流の理解を深める近隣諸国の学習では、近隣諸国から日本に伝播した文化事象について、「どこが同じでどこが違うのか」という問いから文化の変容を把握する。その上で、文化事象を比較し、「なぜ文化の伝播の範囲が異なるのか」という問いから、文化事象そのものの特質やつながりを考察する交流を理解する過程となる。

## Ⅲ. 文化交流の理解を深める近隣諸国の学習の開発

### 1. 中国から日本に伝播した文化—漢字とお茶—

本研究では近隣諸国の事例として、文化交流の歴史が長く、様々な文化事象を日本へ伝えている中国を取り上げる。また文化事象の事例として、普段の生活の中で児童が慣れ親しみ、児童が中国から伝播した文化であるという意識が強い漢字とお茶を取り上げる。

漢字は約 3500 年前に中国で生まれ、約 2000 年前に日本に伝播したとされている。漢字は中国から東アジア・東南アジアに伝播している。日本では、漢字からひらがな、カタカナを生み出すとともに漢字そのものも独自にアレンジするという変容がなされた。

お茶は紀元前 59 年頃に中国中部の揚子江上流付近で利用の記録が残っている。8 世紀に遣唐使として派遣された留学生たちが日本に伝え、12C に栄西がお茶の薬用効果を知り、普及につとめたとされている。お茶は世界各地に伝播している。日本では、緑茶の製法により中国にないお茶の種類(抹茶など)をアレンジするとともに、日本独自のお茶の作法を生み出すなど変容がなされた。

お茶かけご飯や抹茶アイスなどは日本独自のアイデアである。日本で生み出された茶道は中国への再伝播されるなど交流がなされている<sup>5)</sup>。

漢字とお茶は伝播の時期や伝播の範囲や伝播後の変容

や変容後の交流が異なる。漢字とお茶を事例として取り上げることで、中国から伝播した文化は日本で取捨選択され、文化の特質により日本に合った形で変容し、さらに再伝播する場合があることをつかむことができる。

### 2. 小単元「漢字とお茶から文化交流を考える」

小単元の目標は次の通りである。

- 身近な生活の中にある漢字やお茶のルーツや種類や変容について興味を持つ。【関心・意欲・態度】
  - 漢字はアジア圏に広まっているのに対し、お茶が世界中に広まっている理由を考える。【思考・判断】
  - 日中の漢字の共通点や相違点、お茶の種類による成分の違いを読み取り、表現できる。【技能・表現】
  - 中国から伝播した文化は日本で変容し、中国に再伝播している文化があることを理解する。【知識・理解】
- 小単元の構成は次の通りである。
- 漢字の伝播と変容・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
  - お茶の変容と交流・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

小単元の学習過程を表したのが表1である。

第1時は、日本と中国の歴史的な文化交流を概観し、漢字が現在も使用されている地域がアジアの一部であることを確認する。「中国にない日本にだけある漢字」「中国と日本で意味は同じだが表記(語順)が逆になる漢字」「中国と日本で同じ表記で同じ意味の漢字」「中国と日本で同じ表記で意味が異なる漢字」を取り上げることにより、中国から伝播した漢字が日本で変容していることをつかませる。まとめとして漢字について興味や疑問に思ったことを整理させる。

第2時は、日本と中国のお茶の種類の違いから、日本独自の製法によるお茶の変容を確認する。お茶が世界中に伝播し、いろいろな種類や飲み方にアレンジされているという変容について確認した上で、「なぜお茶は世界中に広まったのか」について追究させる。漢字とお茶の伝播を比較し、仮説を立てることにより、民族の指標の1つである文字であり、マスターするために時間がかかる漢字と、アレンジしやすい飲料であり、気軽に取り入れることができるお茶との違いを意識することができる。児童からの様々な仮説の中で、お茶の本来の効用である「お茶は体によい」についてとりあげ、お茶の成分の資料<sup>6)</sup>から検証する。お茶の成分から、お茶は体によく、飲料なので世界各地で取り入れやすいことを認識することができる。文化交流として、日本独自のお茶の種類である抹茶から発達した日本独自の作法である茶道が中国に逆に伝播していることを確認する。

小単元のまとめとして、漢字とお茶についての共通点と相違点を記述させることで、中国から日本への漢字とお茶の伝播、日本での変容と伝播の範囲の違い、再伝播による交流の有無を整理させる。

文化交流の理解を深める小学校社会科における近隣諸国の学習

表1 小単元「漢字とお茶から文化交流を考える」の学習過程

第1時「漢字の伝播と変容」

- ・中国と日本の漢字の「表記」「読み方」「意味」に着目させ、共通点や相違点に興味を持つ。【関心・意欲・態度】
- ・中国から日本へ伝播した漢字が、日本独自の漢字に変容していることに気付く。【知識・理解】

	学習項目	主な発問や指示	学習活動	指導上の留意点	資料	評価
導入	中国と日本の文化交流の歴史	○「世界地図に赤と青で囲ってあるのはどこの国でしょう。」  ○「中国と日本は何年前から交流があると思いますか。」 ○「国同士の交流のきっかけとなったことは何でしょう。」 ○「今でも日本にある中国から日本に伝わった文化にはどのようなものがありますか。」	○世界地図の赤と青で示された範囲がどこの国かを発表する。  ○何年前から交流しているかを予想し、発表する。 ○写真から、本格的な交流のきっかけについて発表する。 ○中国から日本に伝わった文化を発表する。	○資料1の世界地図上で、中国と日本の位置関係を確認し、日本と中国のつながりについて学習することを伝える。また、資料2から津市と中国の鎮江市は友好都市であり、交流している事を説明する。 ○予想を発表させる。児童に「二千年前」などと思いきいに答えさせる。  ○遣隋使と遣唐使に着目させ、中国の進んだ技術や考え方などの収集を目的とした貿易であったことを伝える。 ○実生活から発表させる。児童に資料4の「漢字」「お茶」「仏教」「餃子」「ラーメン」などを答えさせる。特に、漢字とお茶は生活の一部として定着していることを確認する。	資料1：世界地図 資料2：津市と鎮江市の位置  資料3：遣隋使と遣唐使の写真  資料4：中国から日本に伝播した文化	【関心・意欲・態度】 中国と日本の文化交流に関する質問に答えようとしたか。
展開Ⅰ	漢字の使用地域（一部のアジア圏）	○「漢字はいつ頃できたと思いますか。」  ○「漢字はどのようにして作られたのでしょうか。」 ○「現在、漢字を使っている国を知っていますか。」  ○「漢字を使っているこれらの国々をみて気づいたことはありませんか。」	○漢字がいつ頃できたかを予想し、発表する。 ○写真が何の漢字のものであるかを発表する。 ○現在でも漢字を使用している国を発表する。  ○地図から、漢字を使用している国々の範囲を考える。	○資料5の空欄を予想させ、中国で約3500年前に作られた文字であることを伝える。  ○資料6の田園風景の写真から「山」や「田」を連想させ、漢字はモノを文字化したものが多いことを説明する。 ○資料7から、生活全体で使用、生活の一部で使用、中国の移民が使用している国があり、それぞれ中国と日本、韓国と北朝鮮、シンガポールとマレーシアであることを確認する。  ○漢字を使用している国々の位置に着目させ、中国の近隣諸国である東アジアや東南アジアの地域を意識させる。	資料5：漢字はいつ頃できたか  資料6：田園風景の写真  資料7：現在漢字を使っている国  資料8：世界で漢字が使用される国々の地図	【知識・理解】 漢字を使用している国々が中国の近隣諸国であるアジアに限定されていることをつかむことができたか。
展開Ⅱ	日本独自に変容した漢字	○「中国の漢字と日本の漢字は同じだと思いますか。」 ○「これらの漢字をみて、気づくことは何でしょう。」  ○「これらは中国での漢字の書き方です。何か気づくことはありませんか。」 ○「日本ではこのように書きますが、中国ではどのように書くのでしょうか。」 ○「中国と日本で同じ書き方の漢字の中国の意味を考えましょう。また、日本の意味は中国ではどのような書き方になるのかを考えましょう。」	○中国と日本の漢字は同じなのかを考える。 ○資料から、気づくことを発表する。  ○資料から、気づくことを発表する。  ○資料から、中国での書き方を予想する。 ○中国での意味、中国での表記を考えて、ワークシートに書く。	○表記や意味が全く同じなのかを問い、同じものや違うものがあることを伝える。 ○中国にはない日本だけに漢字を提示し、日本独自の漢字があることをつかませる。 ○表記が日本と逆になる漢字を提示し、中国と日本で表記が異なる漢字が存在することをつかませる。 ○同じ書き方で同じ意味の漢字を提示し、中国と日本で表記も意味も同じ漢字があることをつかませる。 ○表記は同じでも意味が違う漢字があることを伝え、日本にの表記が中国ではどのような意味になるのか、日本の意味が中国ではどのような表記になるのかをワークシートに書かせ、資料12で確認させる。	資料9：中国にはない日本だけに漢字 資料10：意味が同じだが字の順番が逆の漢字 資料11：同じ書き方で同じ意味の漢字 ワークシート1：中国での意味と書き方 資料12：書き方は同じでも意味が違う漢字	【知識・理解】 中国と日本の漢字の「表記」「読み方」「意味」が異なるものがあり、日本独自の漢字に変容していることをつかむことができたか。
終結	中国と日本の漢字への探究	○「漢字について興味を持ったことや疑問に思ったことなどをワークシートに書きましょう。」	○興味を持ったことや疑問に思ったことなどをワークシートに書く。	○本時で学んだことから、興味を持ったこと、疑問に思ったことなどをワークシートに書かせる。次時は「お茶」について学習する事を伝える。	ワークシート2：漢字について興味を持ったこと	【関心・意欲・態度】 中国と日本の漢字についてさらに探究しようとしたか。

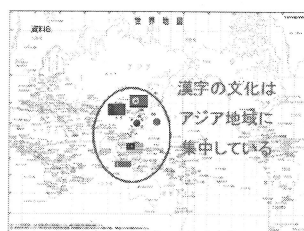
第2時「お茶の伝播と交流」

- ・漢字がアジアの一部に伝播したのに対し、お茶が世界中に伝播している理由を考える。【思考・判断】
- ・お茶が世界中に伝播している理由の1つとしてお茶の成分表を読み取り、考えたことをワークシートにまとめる。【技能・表現】
- ・お茶は中国から世界中に伝播し、日本独自に発展したお茶の種類や作法が中国に逆輸入されていることをつかむ。【知識・理解】

	学習項目	主な発問や指示	学習活動	指導上の留意点	資料	評価
導入	日本と中国のお茶の種類	○「次の漢字の読み方は何でしょう。」  ○「日本と中国のお茶の種類を比較してみましょう。」	○資料から、お茶の読み方を考える。  ○資料から、日本と中国のお茶の種類を比較する。	○「ウーロン茶」「ジャスミン茶」「プーアル茶」「トチュウ茶」のカタカナと漢字を示し、クイズ形式で対応させる。 ○日本と中国のお茶の種類を比較させ、発酵と製法の違いを確認させる。	資料13：お茶の漢字クイズ  資料14：日本と中国のお茶の種類	【関心・意欲・態度】 日本と中国のお茶の種類について比較し、その違いを見つけようとしたか。
展開Ⅰ	お茶の飲用地域（世界全体）	○「お茶は世界のどれくらいの国や人々に広がっているのでしょうか。」	○資料の「○カ国」「○億人」にあてはまる数字を予想する。	○お茶の「○カ国」「○億人」を漢字の「6カ国」「15億人」を参考に予想させ、約160カ国、約30億人であることを伝える。	資料15：漢字使用とお茶飲用の国数と人口	【知識・理解】 世界中でそれぞれの地域に合った種類のお茶が

		○「よくお茶を飲んでいてる国々をみて気づいたことはありませんか。」 ○「アジアではどのようなお茶が飲まれているのでしょうか。アジア以外ではどのようなお茶が飲まれているのでしょうか。」	○地図から、お茶を飲んでいる国々の範囲を考える。 ○写真から、アジアやアジア以外のお茶の種類を確認する。	○アジアばかりでなく、アフリカや北米、南米にもお茶が飲用されていることに着目させ、お茶は世界中に伝播していることをおさえる。 ○主に日本・中国は「緑茶」、マレーシアは「ウーロン茶」、シンガポールは「プーアル茶」がイギリスやインドでは「紅茶」が飲用されていることを確認し、地域に合った種類があることをつかませる。	資料 16：世界でお茶が飲用される国々の地図 資料 17：アジアのお茶の種類の写真 資料 18：アジア以外のお茶の種類の写真	飲用されていることをつかむことができたか。
展開Ⅱ	お茶の効能	○「どうしてお茶は世界中に広まったのでしょうか？」  ○「お茶の成分表を見て気づいたことをワークシートに書きましよう。」  ○「カテキン・カフェイン・ビタミンCはどのような効果があるのでしょうか。」 ○「現在、特に緑茶が世界中でブームになっているのはなぜでしょうか？」	○地図を参考に、どうして世界中でお茶が飲まれているのかを考え、ワークシートに書く。  ○お茶の成分表を読み取り、気づいたことをワークシートに書く。  ○資料から、お茶に含まれている成分の効果を確認する。  ○資料から、緑茶がブームになっている理由を考える。	○お茶が世界中で飲用されていることを再度確認し、漢字がアジアの一部で使用されるのに対し、お茶が世界中で飲用される理由を考えさせる。児童は、「体によい」「おいしい」「運べる」などと予想する。日本に伝播した最大の要因である「体によい」について検証する。 ○お茶の成分表から気づいたことをワークシートにまとめさせる。「ビタミンが摂れる」「カフェインが摂れる」「カテキンが摂れる」などお茶の効能について着目させる。 ○「カテキン」「カフェイン」「ビタミンC」のそれぞれの効能について説明し、体によいことをつかませる。  ○緑茶、ウーロン茶、紅茶を比較し、緑茶が体によい成分が多く、たくさん飲めることをつかませる。	資料 19：世界でお茶が飲用される国々の地図 ワークシート 3 なぜお茶が世界中に広まったのか 資料 18 お茶の成分表 ワークシート 4：お茶の成分表からわかること 資料 2：体によい成分  資料 2：世界中で緑茶ブーム 資料 3 緑茶の効能	【思考・判断】 漢字がアジアの一部に伝播したのに対し、お茶が世界中に伝播した理由を考えることができたか。  【技能・表現】 お茶が世界的に飲用されている理由の1つとして、お茶の成分表から読み取り、考えたことをまとめることができたか。
終結	日本独自に発達した茶文化	○「これは何の写真ですか。」 ○「茶道が世界中に広まっている事例をみましよう。」 ○「漢字とお茶の同じところと違うところについてまとめましよう。」	○何の写真かを考える。 ○新聞記事を読み、茶道の広まりを説明を聞く。 ○2 時間の学習を基に、ワークシートにまとめる。	○作法に着目させ、日本独自に発達した茶道であることを伝える。 ○日本で独自に発達した茶道は中国に逆輸出されていることを確認する。  ○中国から日本に伝わったことを強調し、漢字とお茶の共通点と相違点をまとめさせ、文化の交流に気づかせる。	資料 24：日本の茶道の写真 資料 25：世界に広がる日本の茶道の新聞記事 ワークシート 5：漢字とお茶で同じところと違うところ	【知識・理解】 お茶は日本で独自の種類や作法を発達させ、中国へ再伝播されていることを理解することができたか。

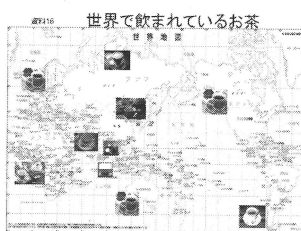
※2007 年度社会科教育特論演習Ⅱで院生の森健輔と共同で作成した指導案に、趣旨を変えない範囲で永田が加筆修正した。



書き方は同じでも、意味が違う単語

中国の意味	日本の漢字	日本の意味	中国の漢字
自動車	汽車	汽車	火車(ハコ)
トイレットペーパー	手紙	手紙	紙
ニュース	新聞	新聞	報紙(シヤ)
時間	工夫	工夫	方法(フホウ)
無理に	勉強	勉強	学習(ガク)
スープ	湯	湯	開水(カイスイ)

資料 12：意味が異なる漢字



お茶の成分表

表をみて気づいたことをワークシートに書きましよう。

成分	日本茶	烏龍茶	紅茶	参考：コーヒー
100gあたり	13.0g	12.5g	20.0g	0g
カフェイン	2.3g	2.4g	2.7g	0.04mg
ビタミンB1	0.35mg	0.13mg	0.10mg	0mg
ビタミンB2	1.40mg	0.86mg	0.80mg	0.01mg
ビタミンC	250mg	8.0mg	0mg	0mg
繊維質	10.6g	12.4g	10.9g	0g

資料 20：お茶の成分表

※森健輔が作成し、栗真小学校の実験授業で使用した資料である。永田が資料20の参考コーヒーを付け加えて三重大学で使用した。

#### IV. 文化交流の理解を深める近隣諸国の学習の効果

##### 1. 分析視点

小単元が文化交流の理解を深めるために効果があったのかを確かめるために、ワークシート記述を分析する。小学生の発達段階に適切な教材であるのかを検討するために、大学生のワークシート記述も参考にする。小単元の実験授業を、2007年6月に栗真小学校で5・6学年合同(45名)で森健輔が実施し、2008年の5月に三重大学教育学部の社会教材研究受講生50名に永田が実施した。

ワークシート記述の分析視点と指標を表したものが表2、分析指標をもとにワークシートの記述を分析した結果を表したものが表3である。

表2 ワークシートの観点と分析指標

分析視点	分析指標	
	数	内容
2：【関心・意欲・態度】 日本と中国の漢字	1つ記述 +1	関心の記述あり +1
	複数記述 +2	意欲の記述あり +2 態度の記述あり +3
3：【思考・判断】 お茶の広まりの違い	1つ記述 +1	思考の記述あり +1
	複数記述 +2	判断の記述あり +2
4：【技能・表現】 お茶の成分表	1つ記述 +1	技能の記述あり +1
	複数記述 +2	表現の記述あり +2
5-1：【知識・理解】 漢字とお茶の共通点	1つ記述 +1	知識の記述あり +1
	複数記述 +2	理解の記述あり +2
5-2：【知識・理解】 漢字とお茶の相違点	1つ記述 +1	知識の記述あり +1
	複数記述 +2	理解の記述あり +2

※無記述やテーマに関係しない記述は0ポイントとした。

文化交流の理解を深める小学校社会科における近隣諸国の学習

表3 ワークシートの分析結果

2: 漢字について興味を持ったことを書いてみよう! (複数回答)【関心・意欲・態度】				
関心: 漢字でわかったことや驚いたこと, 意欲: 漢字でさらにわかりたいこと, 態度: 漢字でわかったことからの疑問や分析				
ポイント	小学生 (全体45名) = 15年20名   [6年25名]		大学生 (50名)	
	記述数 (人: %)	関心と意欲と態度 (人: %)	記述数	関心と意欲と態度
0	(1: 2.2) =   0: 0.0   [1: 4.0]	(1: 2.2) =   0: 0.0   [1: 4.0]	0人 (0%)	0人 (0%)
1	(40: 88.9) =   18: 90.0   [22: 88.0]	(31: 68.9) =   16: 80.0   [15: 60.0]	18人 (36.0%)	16人 (32.0%)
2	(4: 8.9) =   2: 10.0   [2: 8.0]	(11: 24.4) =   4: 20.0   [7: 28.0]	32人 (64.0%)	7人 (14.0%)
3		(2: 4.4) =   0: 0.0   [2: 8.0]		27人 (54.0%)
平均	(1.07) =   1.10   [0.96]	(1.31) =   1.20   [1.40]	1.64	2.22
回答の例	関心: 日本と中国で漢字の意味と書き方が異なる(23) =   11   [12] 関心: 中国の読み方が日本と異なる(6) =   0   [6] 意欲: 日本語と中国語の他の漢字の意味と書き方を知りたい(5) =   3   [2] 意欲: もっと中国語(読み方や書き方や意味)を知りたい(4) =   1   [3] 関心: この書き方が中国ではこの書き方なんて不思議だ(4) =   2   [2] 態度: なぜ日本と中国で漢字の意味と書き方が異なるのか(2) =   0   [2] 意欲: 特別な読みの漢字を調べたい(2) =   0   [2] 関心: 漢字はいろいろな形からできている(2) =   2   [0] 関心: 中国の漢字は難しい(2) =   1   [1] 関心: 漢字はアジアに広がっている(1) =   1   [0] 関心: 日本と中国で漢字は似ている(1) =   1   [0] 関心: この書き方が中国ではこの書き方なんて不思議だ(1) 関心: 日本と中国で漢字は似ている(1)		関心: 日本と中国で漢字の意味と書き方が異なる(31) 態度: なぜ日本と中国で漢字の意味と書き方が異なるのか(21) 態度: なぜ日本は中国の漢字をそのまま使用しなかったのか(18) 意欲: 日本語と中国語の他の漢字の意味と書き方を知りたい(9) 関心: 漢字はアジアに広がっている(5) 意欲: もっと中国語(読み方や書き方や意味)を知りたい(3) 関心: 漢字は大枠で意味(成り立ち)がわかる(3) 意欲: 中国人がどのようにしてたくさん漢字を覚えているのかわきたい(2) 関心: 日本と中国で漢字は成長(変化)している(2) 態度: 漢字は国ごとに違う使い方をしているのではないか(1) 態度: なぜ日本ではひらがなを使うのか(1) 態度: なぜ日本は中国の漢字を使うのか(1) 関心: 漢字はいろいろな形からできている(1)	
3: 漢字はアジアの一部にしか広まらなかったのに, お茶が世界中に広まったのはなぜだろう? (複数回答)【思考・判断】				
思考: お茶や漢字の一方からの考え, 判断: 漢字とお茶を関連付けての分析 (判断の記述は記述数を2つとカウントする)				
ポイント	小学生 (全体45名) = 15年20名   [6年25名]		大学生 (50名)	
	記述数 (人: %)	思考と判断 (人: %)	記述数	思考と判断
0	(10: 22.2) =   2: 10.0   [8: 32.0]	(10: 22.2) =   2: 10.0   [8: 32.0]	0人 (0%)	0人 (0%)
1	(23: 51.1) =   12: 60.0   [11: 44.0]	(34: 75.6) =   18: 90.0   [16: 64.0]	8人 (16.0%)	21人 (42.0%)
2	(12: 26.7) =   6: 30.0   [6: 24.0]	(1: 2.2) =   0: 0.0   [1: 4.0]	42人 (84.0%)	29人 (58.0%)
平均	(1.09) =   1.20   [0.92]	(0.80) =   0.90   [0.72]	1.84	1.58
回答の例	思考: お茶は体によい(19) =   11   [8] 思考: お茶はおいしい(15) =   8   [7] 思考: お茶は貿易(運搬)できる(5) =   3   [2] 思考: お茶は栽培できる(4) =   3   [1] 思考: お茶は飲みやすい(3) =   0   [3] 判断: 言語は難しいがお茶は気軽に取り入れられる(1) =   0   [1] 思考: お茶は様々な種類がある(1) =   0   [1] 思考: お茶は食べ物(1) =   0   [1] 思考: 言語は数多くの文字が存在する(3) 思考: お茶は保存がきく(2) 思考: 漢字は人とのコミュニケーションが必要(2) 思考: お茶を飲む習慣がなかった(1) 思考: 漢字はアレンジがきかない(1)		判断: 既に存在する場合, 漢字は言語で取り入れにくいがお茶は飲料(好み)で取り入れやすい(17) 思考: お茶は貿易(運搬)できる(9) 思考: 言語は既に存在している(9) 思考: お茶は生きるために必要(8) 思考: お茶はおいしい(6) 判断: 漢字は文化で取り入れにくいがお茶は飲料(好み)で取り入れやすい(5) 判断: 言語は難しいがお茶は気軽に取り入れられる(5) 思考: お茶は栽培できる(5) 思考: お茶は様々な種類がある(4) 判断: 言語はアレンジしにくいがお茶はアレンジしやすい(3) 思考: お茶は食べ物(3)	
4: お茶の成分表からわかることを書いてみよう? (複数回答)【技能・表現】				
技能: お茶の成分の資料の読み取り, 表現: 資料の読み取りからの分析した表現				
ポイント	小学生 (全体45名) = 15年20名   [6年25名]		大学生 (50名)	
	記述数 (人: %)	技能と表現 (人: %)	記述数	技能と表現
0	(3: 6.7) =   2: 10.0   [1: 4.0]	(3: 6.7) =   2: 10.0   [1: 4.0]	1人 (2.0%)	1人 (2.0%)
1	(14: 31.1) =   4: 20.0   [10: 40.0]	(37: 77.8) =   18: 90.0   [19: 76.0]	14人 (28.0%)	34人 (68.0%)
2	(28: 62.2) =   14: 70.0   [14: 56.0]	(5: 15.6) =   0: 0.0   [5: 20.0]	35人 (70.0%)	15人 (30.0%)
平均	(1.56) =   1.60   [1.52]	(1.04) =   0.90   [1.16]	1.70	1.30
回答の例	技能: 日本茶はビタミンが多い(25) =   17   [18] 技能: 紅茶はカテキンが多い(16) =   10   [6] 技能: 紅茶はビタミンCがない(13) =   7   [6] 技能: お茶はカフェインはほぼ同じ(6) =   5   [1] 表現: お茶は体によい(5) =   0   [5] 技能: お茶はカテキンが多い(4) =   3   [1] 技能: 紅茶はカフェインが多い(2) =   1   [1] 技能: 日本茶は栄養が多い(2) =   2   [0] 技能: 日本茶はカフェインが少ない(2) =   0   [2] 技能: お茶はいろいろな成分がある(1) =   1   [0] 技能: お茶は繊維質がほぼ同じ(1) =   0   [1] 技能: 日本茶は繊維質が少ない(1) =   0   [1]		技能: お茶はコーヒより栄養が多い(30) 技能: 日本茶はビタミンが多い(21) 表現: お茶は体によい(13) 技能: 日本茶は栄養が多い(9) 技能: お茶はいろいろな成分がある(5) 技能: お茶はカフェインが多い(4) 技能: お茶はビタミンが多い(3) 表現: 紅茶(完全発酵)は栄養が失われる(2) 技能: お茶はカテキンが多い(2) 技能: お茶は種類によって栄養が異なる(2) 技能: 紅茶はカテキンが多い(1) 技能: 紅茶はビタミンCがない(1)	
5-1: 中国から伝わった漢字とお茶で同じところと違うところを書いてみよう! (同じところ) (複数回答)【知識・理解】				
知識: 伝播や変容のみ記述, 理解: 伝播と変容を関連付けて記述 (理解の記述は記述数を2つとカウントする)				
ポイント	小学生 (全体45名) = 15年20名   [6年25名]		大学生 (50名)	
	記述数 (人: %)	知識と理解 (人: %)	記述数	知識と理解
0	(13: 28.9) =   7: 35.0   [6: 24.0]	(13: 28.9) =   7: 35.0   [6: 24.0]	4人 (8.0%)	4人 (8.0%)
1	(29: 64.4) =   11: 55.0   [18: 72.0]	(30: 66.7) =   11: 55.0   [19: 76.0]	14人 (28.0%)	26人 (66.7%)
2	(3: 6.7) =   2: 10.0   [1: 4.0]	(2: 4.4) =   2: 10.0   [0: 0.0]	32人 (64.0%)	20人 (44.4%)
平均	(0.78) =   0.75   [0.80]	(0.76) =   0.75   [0.76]	1.70	1.32
回答の例	知識: 中国から伝わった(24) =   9   [15] 知識: 中国が生み出した(3) =   0   [3] 理解: 中国から伝わり日本で変化した(2) =   2   [0] 知識: 昔からある(2) =   0   [2] 知識: いくつかの国に伝わった(1) =   1   [0] 知識: 生活の中で定着している(1) =   1   [0]		知識: 生活の中で定着している(25) 理解: 中国から伝わり日本で変化した(20) 知識: 日本で独自の変化をした(15) 知識: 中国から伝わった(3) 知識: いくつかの国に伝わった(1) 知識: 昔からある(1)	
5-2: 中国から伝わった漢字とお茶で同じところと違うところを書いてみよう! (違うところ) (複数回答)【知識・理解】				
知識: 伝播の違いや交流のみ記述, 理解: 伝播の違いと交流の両方を記述 (理解の記述は記述数を2つとカウントする)				
ポイント	小学生 (全体45名) = 15年20名   [6年25名]		大学生 (50名)	
	記述数 (人: %)	知識と理解 (人: %)	記述数	知識と理解
0	(18: 40.0) =   11: 55.0   [7: 28.0]	(18: 40.0) =   11: 55.0   [7: 28.0]	8人 (16.0%)	8人 (16.0%)
1	(27: 60.0) =   9: 45.0   [18: 72.0]	(27: 60.0) =   9: 45.0   [18: 72.0]	27人 (54.0%)	31人 (62.0%)
2	(0: 0.0) =   0: 0.0   [0: 0.0]	(0: 0.0) =   0: 0.0   [0: 0.0]	15人 (30.0%)	11人 (22.0%)
平均	(0.60) =   0.45   [0.72]	(0.60) =   0.45   [0.72]	1.14	1.06
回答の例	知識: 漢字はアジアのみ, お茶は世界(広い地域)に広がっている(25) =   9   [15] 知識: 使ったり飲んだりする国の数(2) =   0   [2] 知識: お茶は物質(形のあるもの)で漢字は文化(形のないもの)である(2) 知識: 使ったり飲んだりする国の数(1)		知識: 漢字はアジアのみ, お茶は世界(広い地域)に広がっている(23) 理解: 漢字はアジアのみ, お茶は世界に広がり一部中国に逆輸入されている(11) 知識: お茶は中国に逆輸入されている(6) 知識: お茶はアレンジしやすく漢字はアレンジしにくい(3)	

\*太字は分析の際に着目する視点と記述例である。ワークシートの記述内容からそれぞれの記述例にあてはめた。| は5年, [ ] は6年の値を示している。

## 2. ワークシートの分析

文化交流の理解を深める要素である、文化の伝播、変容、交流に着目して、ワークシート記述を分析する。

ワークシート2「漢字について興味を持ったことを書いてみよう」【関心・意欲・態度】の記述から、小学生は、中国から日本へ伝播した漢字が日本で変容していることに対する関心や中国と日本の漢字の違いについてもっと知りたいという意欲が高まっている。5年と6年を比較して、6年は、よりもっと知りたいという意欲が高まっている。大学生と比較して、小学生は漢字に対する疑問を出し、分析をする態度までは至っていないことがわかる。

ワークシート3「漢字はアジアの一部にしか広まらなかったのに、お茶が世界中に広まったのはなぜだろう」【思考・判断】の記述から、小学生は、中国からの漢字とお茶の伝播の範囲の違いについて、お茶の特質からの思考がなされている。6年は伝播の範囲ではなく伝播の手段の回答が多く、題意を取り違えているためポイントが5年より低くなっている。大学生と比較して、小学生はお茶と漢字を関連付けて特質の違いを判断することがかなり難しいことがわかる。

ワークシート4「お茶の成分表からわかることを書いてみよう」【技能・表現】の記述から、小学生は、お茶は体によいことの検証として、お茶の成分を資料から読み取る技能が高まっている。5年と6年を比較して、6年は、より資料の読み取りからの分析したことを表現することができている。大学生と比較して、小学生は資料の読み取りとることに留まり、全体の読み取りから分析した表現ができていないことがわかる。

ワークシート5「中国から伝わった漢字とお茶で同じところと違うところを書いてみよう」【知識・理解】の記述から、小学生は、中国から日本への漢字やお茶の伝播やそれぞれの変容、お茶の伝播の範囲の違いを知識として得ている。しかし、お茶の交流については意識できていない。また、題意を取り違えている児童がかなり多い。5年と6年を比較して、6年は、よりお茶の伝播の範囲の違いを把握できている。大学生と比較して、小学生は伝播と変容を関連付けたり、双方向の伝播である文化の交流を理解できていないことがわかる。

小単元を通して、児童は文化の伝播や伝播した文化の変容についての意識が高まっている。これは、漢字とお茶のそれぞれで伝播と変容のイメージがつかめているためである。しかし、日本で生み出された茶道の中国への再伝播についての意識が弱く、文化の双方向での交流が十分に把握されていない。これは、日本で抹茶という新しい種類がアレンジされ、抹茶から日本独自の茶道が生まれたという変容の意識が弱く、茶道が日本から伝播したこととの関連づけが不十分であるためである。

以上の分析から、中国から日本に伝播した漢字とお茶の伝播の範囲や変容や交流を比較検討する手法は、文化交流を理解を深めるために一定の効果があるといえる。

## V. 成果と課題

本研究は、小学校社会科における近隣諸国の学習について、文化交流の理解を深める学習を提案した。文化の伝播、文化の変容、文化の交流に着目し、それぞれ特質の異なる文化事象を比較検討する新しい学習に基づいて授業を開発し、実験授業を実施した。ワークシートの分析結果から、本研究で開発した授業は児童の文化交流の理解を深めるために一定の効果があることを示した。

従来の近隣諸国の学習で、導入のみに位置づけられていた近隣諸国から伝播した文化事象は、文化交流の理解を深める近隣諸国の学習では、学習内容の中核として位置づけることができる。

実験授業では、児童は文化の交流を意識することが不十分であった。「なぜお茶は日本から中国に伝播するのに漢字は伝播しないのか」という問いを加えるなど、文化の再伝播による交流の有無を児童に意識させる手だてを取り入れていく必要がある。今後、他の近隣諸国についても文化交流の理解を深める教材を検討し、授業開発を行っていく必要がある。

## 註

- 1) 文部省『小学校学習指導要領解説社会編』1998, p.107
- 2) 田淵五十生「多文化社会とわたしたち」米田伸次・大津和子・田淵五十生・藤原孝章・田中義信『テキスト国際理解』国土社 1997, p.63
- 3) 東京書籍、日本文教出版、大阪書籍、教育出版、光村の教科書を分析した。
- 4) 文化は、文化の構成要素として精神文化・行動文化・物質文化・民族文化が存在し、文化の構成要素の中に個々の文化事象が属している。
- 5) 拙稿「高等学校地理における異文化理解を深める文献調査学習－異文化交流の仮想体験を活用して」地理教育研究 No.5, 2009, pp.1-2
- 6) 「中国と私 茶道裏千家」朝日新聞 2007年1月30日
- 6) <http://www.ochakaido.com/sousi/kounou/kou1.htm>

## 参考文献

- 大島正二『漢字伝来』岩波新書, 2009  
 村井康彦『茶の文化史』岩波新書, 1979  
 「日本茶の種類」<http://www.fujiya-chaho.jp/kind.html>